

## 82歳シスター ハイチへ戻る

### 結核治療30年

### 須藤昭子さん



大地震に見舞われたハイチで約30年間結核患者の治療に携わってきた医師でシスターの須藤昭子さん(82)の写真、福岡亜純撮影。19日夕、被災地視察のため成田空港を出発した。地震発生時、一時帰国中で、現地に戻れなくなっていた。約5カ月ぶりに、ハイチに戻る願いがかなう。須藤さんは1970年代半ば、ハイチに渡り、レオガン近郊の国立結核療養所で治療に

あたってきた。一昨年、第一線から退いたが、ハイチを拠点に活動を続けてきた。

地震後、所属するクリスト

・ロア宣教修道女会(本部・カナダ)からハイチへ戻る許可がおりなかったが、財団法人結核予防会の医師らが同行してくれることもあり、視察名目で2週間の滞在が可能となった。

「家の再建とか、食糧確保のための畑作りとか、他にもできることは手伝ってこようと思う」と、須藤さん。帰途カナダに寄り、来月半ばに日本に戻る予定だ。地震直後、国際医療支援でハイチに入った山本太郎・長崎大学熱帯医学研究所教授は「須藤さんが戻ったら、支援策を一緒に考えていきたい」。

(熊井洋美)